安曇野市立穂高東中学校

(1) 学級数　１９学級（うち特別支援学級４学級）
(2) 生徒数　男子 253 名　女子 228 名　計 481 名
(3) 職員数　45 名
(4) 学校紹介

http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2020003

西には雄大な常念岳、東には豊かな水をたたえながら流れる犀川。澄んだ空気と美しい水、自然に恵まれた安曇野穂高地区に位置する穂高東中学校は２００１年に旧穂高中学校が東西２校に分割されたうち、同校の敷地や施設を受け継いで開校しました。東隣には近代彫刻家、東洋のロダンといわれる萩原碌山の個人美術館が、また、校区内には私塾「研政義塾」の創設者である井口喜源治の記念館や漆芸術家高橋節郎記念美術館などがあり、穂高東中学校はまさに文化の薫り高き穂高の地に建てられているといえます。

一方、生徒達は文化的に恵まれている環境で学校生活を送っているだけでなく、生徒自身が母校と故郷の文化を創り出そうとしています。詩人尾崎喜八の『中学校の音楽室でピアノが鳴っている…』で始まる「田舎のモーツァルト」という詩があります。詩の中の学校は穂高中学校です。穂高東中学校ではこの詩にちなんだ音楽祭が毎年行われていて、今年で１７回目を数えます。全校合唱の歌声に全校で歌う「喜び」が表現され、１人１人の姿にこの伝統を受け継いでいこうという「誇り」が感じられます。東中の生徒は伝統を大切にしながらも生徒会理念の「東中の zero」をベースに新たな校風を創造し継続しようと意欲的です。

学校教育目標

○何事にも粘り強い生徒
○自分も人も大切にする生徒
○規律正しく生き生きとした生徒

穂高東中学校のキーワード

「笑顔と優しさの震源地になろう」

1　教科の学力の向上と向学の気風の醸成
2　積極的な生徒指導の推進
3　新たな校風を創造し継続する生徒会活動
4　不登校、不登校傾向生への積極的な支援
5　学校・学級・学年の方針等の発信の継続

学習面では「教科の学力向上と向学の気風の醸成」をキーワードに、基礎・基本の確実な定着と伸びる力を一層伸ばす授業を創造していくため全校研究テーマを「自ら考え、自ら学び、共に高め合うことができる生徒の育成」としました。テーマを実現するため授業を創っていく上で次の３点を意識して、日々の授業実践を積み重ねています。

○学力向上を目指した「わかる授業」の実践（家庭学習との連動・授業のユニバーサルデザイン化）
○つける力、終末の姿を明確にした授業づくり（授業のねらいを明確にし、学びの達成感を実感し次時につながる振り返りができる場の設定）
○思考力・判断力・表現力を高める授業の創造（必要感があり、目的が明確にされた学び合い）

また、「教科の学力向上と向学の気風の醸成」は生徒１人１人が安心して生活できる学級・学校で分かる授業を積み重ねていくことが前提となります。ユニバーサルデザインの学級経営と授業のユニバーサルデザイン化をその礎と考え、居心地がよく安心して生活できる学級で焦点化・視覚化・共有化を意識した授業を行うことを心がけています。

(5) 大会テーマの受けとめとねらい

「わかる授業」を通して自信をつけ、学び合いの中で自己を更新したりコミュニケーション能力を高めたりすることは「心豊かな人間の育成をめざす」ことにつながり、全校研究テーマの具現に迫ることであると受けとめられます。

全校テーマを受け，保健体育科では以下のようなテーマで研究を進めています。

［保健体育科研究テーマ］
友と気づきを伝え合い，動きを確かめながら運動の楽しさを味わう保健体育学習
～視聴覚機器の活用によって，確かな動きをつくる学習のあり方～

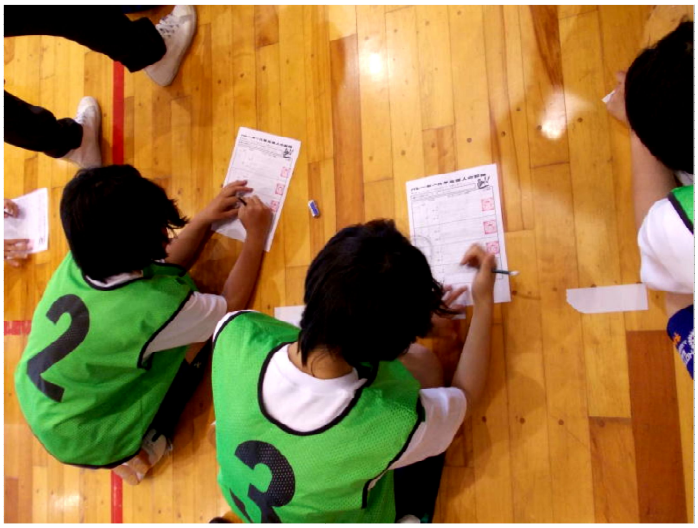
体を動かすことが好きであったり，運動部に所属して熱心に活動したりしている生徒もいる反面，分野によっては苦手意識を感じたり，思うように動くことができなかったりしてあきらめてしまいがちな生徒もいるのが現状です。

視聴覚機器（タブレット）を活用した教師や友からの助言や，うまくできている生徒のよさを伝え合うことを通して，生徒個々の技能やグループの集団的な技能が向上することで，共に運動を楽しむ喜びを味わうことを期待したいと考えています。

また，保健体育科でねらう「友との学び合い」のとらえと本校が目指す生徒の学びの姿については，その運動の特性にふれ，楽しさを味わうための技能を身につける活動を支えるものが友との関わり合いや支え合いによる学び合いと考えています。競争や協同の場面が多い体育の学習では互いに批正し合い，助け合い，励まし合うことによって，望ましい人間関係を育て，共に高め合う態度を培うことが大切となります。一人ではできない活動を仲間と共に実現させたり，自らの課題を解決したりしていくためには，互いの関わりは欠くことはできないもの。学習形態を工夫したり，互いに関わり合いながらひとりひとりが生かされる活動場面を多く設けたりすることで共に学ぶよさを感じ，実践する力を育てたいと考えています。

(6) 日常的な活動

保健体育科では，自分の動きの確認やペアやチームの動きの確認をするために，どの種目においても積極的にタブレットを使用しています。タブレットは，その場で撮影した映像をビデオカメラに比べて大きな画面で個人や仲間が，すぐに見ることができたり，大型テレビにつなぐことで，全員で映像を確かめながら視覚的な共通認識ができたりするよさがあります。言葉で伝えるよりもはるかに伝わりやすく，動きの確認に役立ちます。自分やチームの課題も明確になり，その運動のもつ特性についても理解をより深めることができます。

(7) 研究を推進してきて現時点での課題

現時点では，教師がタブレットを活用することで生徒の活動に対する支援に役立てていますが，１つの班に１台ずつのタブレットを貸し出し，生徒どうしがタブレットを用いて毎時間お互いに活用できるようにしたり，運動や動きを比較したり，印を画面に書き込んでお互いにポイントを確かめたり，コマ送りして動きを確認したりできるようなソフトウェアを探して授業で活用していけるようにしたい。また，タブレットを大型テレビにつなぐ手間を省けるような無線LANのシステムを導入していきたい。